

パレスチナ映画 & 講演会

2026年2月21日(土)

岡崎市せきれいホール

開場13:30

開演14:00

映画

「ノー・アザー
・ランド

故郷は他にはない」

前売券1000円 当日券1200円
学生・障がい者 無料

講演会

『マサーフェル・ヤッタからガザへ
——拡大する暴力への

「私たち」の応答可能性』

講師 金城美幸 氏

名古屋学院大学講師

パレスチナ/イスラエル研究

著書:「パレスチナ/イスラエルの〈いま〉を
知るための24章」(分担執筆 第15章

「日常の中のナクバ/ナクバの中の日常」

明石書店)

共著:「いつの日かガザが私たち
を打ち負かすだろう:

早尾貴紀対談集」(青土社)

訳書:ラシード・

ハーリディー

「パレスチナ戦争」

(鈴木啓之、
山本健介との

共訳

法政大学

出版局)



場所: 岡崎市せきれいホール 岡崎市朝日町3丁目36-5

主催: 岡崎ガザ上映会

連絡先: 090-8158-3813 (中根)

本年度ベルリン国際映画祭2冠！〈最優秀ドキュメンタリー賞&観客賞〉

各国の映画祭で早くも30賞獲得！アカデミー賞®最有力

ノー・アザー・ランド

故郷は他にない

破壊される故郷を撮影し続けるパレスチナ人青年と、彼を支えるイスラエル人青年

敵同士だったはずの2人の**“命がけの友情”**が生んだ
奇跡のドキュメンタリー

<INTRODUCTION>

イスラエルによる破壊と占領が今まさに進行している、ヨルダン川西岸のパレスチナ人居住地区<マサーフェル・ヤッタ>。この現状をカメラに収め世界に発信することで故郷の村を守ろうとするパレスチナ人青年バーセル・アドラーと、彼に協力しようとその地にやってきたイスラエル人青年ユヴァル・アブラハムによる決死の活動を、2023年10月までに渡って記録。住民たちが目の前で家を壊され強制的に追放される不条理な現実を、緊迫の映像であぶりだす。

しかし惨状の中でも、同じ年齢の青年2人が共に過ごし対話を重ねることで、政治的背景や立場を越えた“命がけの友情”が生まれる奇跡的な瞬間を、本作はエモーションに映し出していく。自由のために強大な力に立ち向かい、支え合う彼らの姿は、「どうしたら人は分かり合えるのか？」という問いへの一筋の希望を私たちに与えてくれるに違いない。

監督は彼らを含むパレスチナ・イスラエル両国の若き映像作家兼活動家の4人。「イスラエル人とパレスチナ人が、抑圧する側とされる側ではなく、本当の平等の中で生きる道を問いかけたい」という強い意志のもと製作された。ベルリン映画祭では最優秀ドキュメンタリー賞と観客賞をW受賞し、観客によるパレスチナ連帯の大合唱や監督の受賞スピーチが話題となる一方、イスラエル擁護の立場を取るベルリン市長などがそれを強く非難。今なお世界中で大きな論争が続くなか監督たちは精力的に活動を続けている。

各国の映画祭で絶賛を集めすでに30の賞を獲得、本年度アカデミー賞最有力との呼び声も高い必見のドキュメンタリーだ。

それでも僕たちは この現実を変えたい

<STORY>

ヨルダン川西岸地区のマサーフェル・ヤッタで生まれ育ったパレスチナ人の青年バーセルは、イスラエル軍の占領が進み、村人たちの家々が壊されていく故郷の様子を幼い頃からカメラに記録し、世界に発信していた。そんな彼のもとにイスラエル人ジャーナリスト、ユヴァルが訪れる。非人道的で暴力的な自国政府の行いに心を痛めていた彼は、バーセルの活動に協力しようと、危険を冒してこの村にやってきたのだった。同じ想いで行動を共にし、少しずつ互いの境遇や気持ちを語り合ううちに、同じ年齢である2人の間には思いがけず友情が芽生えていく。しかしその間にも、軍の破壊行為は過激さを増し、彼らがカメラに収める映像にも、徐々に痛ましい犠牲者の姿が増えていくのだった。

監督：バーセル・アドラー、ユヴァル・アブラハム、ハムダーン・バラール、ラヘル・ショール

2024年／ノルウェー、パレスチナ／アラビア語、ヘブライ語、英語／5.1ch／95分／原題：NO OTHER LAND／日本語字幕：額賀深雪／配給：トランスフォーマー

©2024 ANTIPODE FILMS. YABAYAY MEDIA

公式HP：<https://transformer.co.jp/m/notherland/> 公式Twitter：@notherland_jp